【ねがいましては】

平成２３年２月２４日　　*KYOWA SCHOOL*
第２４４号

「宿題はやがて・・・」

前回のねがいましてはで取り上げた宿題、子どもたちの受けるダメージの大きさに驚いています。ここでは宿題は出しません。ほとんどの子たちが、宿題に対してよいイメージを持っていないからです。玄関先にあります『自分歩き』という小さな看板にもあるように、自分自身の力で歩けるような勉強を目指しているからです。すなわち自立です。

勉強に対し命令形が多い社会で、子どもたちは徐々に萎縮し始めます。もちろんそうではない子もいます。圧倒的少数ですが・・・。

ここに通う子たちの中にも、宿題によって立ち直ることなく、ただ時間ばかりを費やしてしまった子がいます。その子がここに来て行うことは学校からの宿題です。提出すればよいわけですから、わからない部分は私のほうで解いて渡します。説明がつくものはしますが、その説明も混合型の問題である場合、基礎からの説明が必要になるわけで、理解してもらうには、かなりの時間が必要になります。宿題を終わらせることの方が急務ですので、説明は後回しになりますが、時間がなく説明なしでその日は終了・・・という日が大半を占めるようになります。

宿題の内容が本人にとって高度であり、その基礎部分も把握できていないにもかかわらず、学校側は一方的に宿題を出してきます。漢字練習などのような単純なものではなく、数学のしっかりとした問題です。英語についても文法的な内容のものです。文法の場合、理由があるわけで、暗記による解きかたはかなり危険です。

結局、宿題のみに追いやられる日々が続いた結果、その子は徐々に来なくなりました。

義務教育を暗記による解決策で乗り越えてきたお子さんも同様でした。そのお子さんは、英語についてまあまあ出来るものと感じていたようです。しかし、文法のテキストで試してみたところ、まったくと言ってよいほど入っていなかったのです。どういうことかと申しますと、学校での定期テストの折、学校側は、これをしっかり暗記しておけば、かなり点数が取れるよというヒント的なプリントを渡します。まじめなそのお子さんは、それなりにそのプリントを暗記常態にします。そしてテスト・・・。それなりな点数が出ます。

が、どうでしょう。その他の問題に触れてみれば、英文法などのように、数学的なルールのあるものは、できないことになります。単語こそ知っていても、文法的問題は単語力ではこなせません。

つまり、自分の通う学校のテストでそれなりに点を取っていても、実際には・・・。

これはとても恐ろしい現象だと思います。学校側のカモフラージュといっても過言ではなくなります。

「お宅のお子さんは、しっかりとやっていますね。」という内申書の裏づけにはなりますが、実際に当たり前のテストをした場合、傷つくのは本人になります。実際、驚いたようです。

その後、本来の文法を学ぼうというところなのでしょうが、そうはいきません。それまでおこなってきた向かい方が体に染み付いてしまったのか、今までの向かい方に戻りがちになります。定期テストが近づいてくると、暗記による取り組みが始まってしまうのです。そのほうが安心感があるのです。今までと違った取り組み方をして、ドカンと落ちてしまったらどうしようという恐怖心が出ているのでしょう。安全策を取るのは誰でも同じかもしれません。

その場かぎりの打開策です。

結局基本を一から学び直すことなく出席が少なくなっていきます。もっと先を見つめてほしい・・・。私の願いも届きません。

解決法は・・・ご家族の力です。

私は問題がなかなか解決しない場合には、極力お手紙を差し上げるようにしています。ただ、それも効果なく終わってしまうこともあります。保護者の方から打診がないのです。

お子さんが泥沼の中に漬かっている場合、必要なのはご家族の愛情です。家族間で真剣に話し合うことです。その際必要になるのが親の勇気です。叱りつけるだけで終わってしまいがちな一方的なことばではなく、お子さんのこころを１００％理解する勇気です。真剣な心のぶつかり合いがあります。なぜ勉強するのか、なぜ生きるのか、なぜ親と子なのか・・・。お子さんの心の中に鬱積した、ことばに表せない苦しみを１００％受け止める勇気です。

声をかけようとすると、とたんに自室にこもってしまうとか、毎日のように仕事の帰りが遅く、なかなか時間が持てないとか、いろいろな理由があると思いますが、どれもこれも親の逃げとしか思えないのです。もし、家族が病に倒れ、危篤状態に陥ったとしたら、会社などそっちのけで駆けつけるでしょう。

追い込まれたお子さんは、まさに心の危篤状態だと思います。表情に表れなければ察しにくい心の中・・・。ただ、単調に毎日を送っていれば、何とか生活できる・・・。マンネリ化した生活の中で、心は止まったままになります。

真剣に真正面に向き直って、お互い心と心を素っ裸にすること・・・。これが家族にしかできない家族らしさではないでしょうか。

親と子の間には強い一本の絆があります。それは信頼という接着剤で繋がっています。

時に宿題は家族をも奪ってしまうのでしょうか・・・。